

## 令和4年度第1回幕別町総合教育会議議事録

1 開催日時 令和4年7月26日（火）15時30分～17時30分

2 開催場所 千住生活館、蝦夷文化考古館（現地視察）

3 出席委員（6名）

幕別町長	飯田 晴義
幕別町教育委員会教育長	菅野 勇次
教育委員	小尾 一彦
教育委員	岩谷 史人
教育委員	國安 環
教育委員	東 みどり

4 日程

(1) 開会挨拶

(2) 意見交換

① アイヌ政策推進交付金を活用した施設整備と展示計画について

② 幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫教育の進め方について

5 事務局出席者

幕別町企画総務部長	山端 広和
“ 政策推進課長	白坂 博司
“ 政策推進課副主幹	太刀野 亜也乃
“ “	日下部 孝彦
幕別町教育委員会教育部長	川瀬 吉治
“ 学校教育課長	西田 建司
“ 生涯学習課長	石田 晋一
“ 教育部主幹	添田 雄二
“ 学校教育課総務係長	福田 琢也

6 傍聴者

2名

## 7 議事録

### 【開会挨拶】

(政策推進課長)

定刻となりましたのでただいまから令和4年度第1回幕別町総合教育会議を開催いたします。開会にあたりまして、飯田町長からご挨拶を申し上げます。

(町長)

皆さんこんにちは

庁舎以外ではじめての総合教育会議です。はじめて生活館で開催するということで、この施設があと2年経てば新しくなる、今の姿を目に焼き付けて、今後の建設を楽しみにしていただきたいと思います。

今、なんと言っても話題は新型コロナウイルス第7波、それと非常に恐ろしいのが物価高騰です。

依然として20歳以下の年少者に感染が拡大し、本当に油断がならないなと思います。とは言え、やることは決まっている。手指の消毒、マスクの着用など、しっかり感染対策を行っていくしかありません。

それと、物価高騰対策について、新聞等では、特に農業分野で、肥料については6月から80%近く、飼料についても7月から更に価格が上がっていると報道されており、農家は大いに先行きを懸念していると思います。いずれにしても、国の責任でしっかりとやってほしいと考えています。

それと、燃料対策については10月以降も対策をやってくれそうだという報道もありますので、国も努力しながら、みんなで協力しながらやっていく必要があると思っています。

今日の話題は、教育委員会としてこれからの課題として大きなものを挙げさせていただきました。

一つには、生活館の建替えとアイヌの展示施設の整備です。このエリアをどう使うのか、より多くの方に来ていただく、そしてアイヌ文化の振興につながるような施設にする。基本計画の策定を担う事業者が決まりましたので、ようやくこれから本格化すると期待しております。私はここを第2のウポポイにしたいということを申し上げていて、実際にウポポイに二十数点の史料が展示されているということで、大いなる希望を持っています。

それともう1点は、小中一貫教育についてです。今はどこも小中一貫教育を行っているわけですが、まずは幕別中学校、幕別小学校をどういう形で小中一貫教育を進めていくのか、議論を交わしていただきたいということで、今日は2題を上げさせていただきました。

自由な検討会の場でありますので、日頃思っていることを意見交換できれば良いと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

(政策推進課長)

今日の議題は、(1)アイヌ政策推進交付金を活用した施設整備と展示計画について、(2)幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫教育の進め方についての2点です。

(1)につきましては、担当課から説明を行った後、屋外に出て、敷地外構と蝦夷文化考古館の視察をした後、生活館に戻っていただき、意見等をいただきたいと思いますと考えておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

### 【総合教育会議意見交換】

(町長)

それでは、「(1) アイヌ政策推進交付金を活用した施設整備と展示計画」につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(生涯学習課長)

お手元の資料1「アイヌ政策推進交付金を活用した施設整備と展示計画」をご覧ください。事業の進捗状況等を簡単にご説明いたします。

「1 事業の進捗状況」についてです。国の交付金を活用して事業を実施しています。

「(1) 文化振興事業」からご説明いたします。

「① 国内主要博物館幕別・十勝アイヌ民具及び儀式等調査」についてです。6月29日、30日に添田主幹と阪口学芸員が民具資料の調査に東京大学博物館のほか、来年度事業・ワークショップ打合せのため目白漆学舎へ、写真資料調査のため早稲田大学演劇博物館、陣羽織修繕打合せのため東京国立博物館へ行っています。今後も、いろいろなつながりを持ちながら調査を続けてまいりたいと考えています。

「② 幕別からアイヌの未来を考えるシンポジウム」ですが、8月11日(木・祝)に基調講演「アイヌ政策推進交付金事業がアイヌ社会にもたらしたもの」を予定しています。マクウンベツアイヌ文化伝承保存会の方々の要望もあり開催となりました。

「(2) 地域・産業振興事業」です。「① アイヌ文化に関する展示会の開催」を令和5年2・3月に予定しています。展示ケースを作成し、史料の移動展示を予定しています。

「(3) コミュニティ活動支援事業」が施設の建設にかかる事業です。

「① 多機能型交流施設(生活館棟、展示館棟)の基本計画」を策定する事業者をプロポーザルで選定したところです。生活館棟と展示館棟の2つの施設につきまして、年度をまたいで建設を考えています。

②～⑤がこれから行う事業になります。

「② 千住生活館解体設計」につきましては、今年度行います。

「③ 蝦夷文化考古館保存改修設計」につきましては、主に宝物堂の保存改修を行うための設計です。

「④ アイヌ文化拠点空間整備アドバイザー会議」につきまして、プロポーザルによって基本計画策定事業者が決まりましたので、建築に精通した方、博物館の展示に精通した

方々、アイヌの代表の方など専門知識を有する方々に入っただき、設計の中身について打ち合わせを行いたいと考えています。

「⑤ 常設展示シナリオ作成会議」につきましては、博物館法に基づくシナリオを作成する会議を、アイヌの方々の意見を取り入れながら進めてまいりたいと考えています。

続きまして「2 プロポーザルスケジュール」についてご説明いたします。

5月19日に第1回幕別町アイヌ文化拠点空間整備事業基本計画策定事業者選考委員会を開催し、プロポーザル実施要領について審議いたしました。

27日にプロポーザル実施の公告を行い、6月1日に参加表明が3者からあり、延べ23件の質問を受け、6日にホームページで一括回答しています。10日までに4者から参加表明書提出を受け、17日に4者ともに参加資格を満たしていることから、企画提案書の要請通知を送付いたしました。27日に4者から企画提案書の提出を受けました。7月1日に4者にプレゼンテーションの参加要請通知を送付しまして、12日に第2回幕別町アイヌ文化拠点空間整備事業基本計画策定事業者選考委員会を開催し、最終審査の評価方法を審議しました。13日、第3回幕別町アイヌ文化拠点空間整備事業基本計画策定事業者選考委員会を開催し4者からプレゼンテーションを受けて質疑応答を行い、最終審査をいたしました。

その最終審査結果が表「審査結果」になります。

1位がアトリエブク、2位が岡田設計ということでその他2者の名前を伏せて結果を公表しています。今後、選定した事業者と業務委託契約を締結し、会議を持ちながら内容を深めてまいりたいと考えています。

「3 一体的整備での課題」としまして、「(1) 国道から施設に入る左折帯、右折帯の設置に向け関係機関との協議が必要」につきましては、国道に左折帯、右折帯を設置したほうがスムーズに施設に入れるのではないかと、今後、関係機関と協議が必要と考えています。現在片側一車線で、道幅がないことから、渋滞も想定されると考えています。

「(2) 国道38号線から施設入口場所の設定」につきましては、施設入口の場所が、現在は千住橋から下り勾配になるところに蝦夷文化考古館の入口、幕別方面に進んだところに生活館の入口があり、安全な位置の出入口の設定と、新しい施設ができた場合に大型バスの出入りが考えられますことから、国道との高低差の調整が課題かと考えています。

(3)になりますが、計画地が、幕別町洪水ハザードマップでは0.5～3mの浸水想定地域の低い土地のため、専門的な知識をお持ちの方々から意見をいただいて進めていきたいと考えています。

(4)ですが、十勝平野断層地震では最大震度7が想定されており、液状化発生のリスクも指摘されている土地でありますことから水害対策と併せて地震の対策も考えていく必要があると考えています。せっかく建てた建物が地震で被害にあわないように、また、宝物が壊れないように対策を行っていきたいと考えています。

「4 アイヌ文化拠点空間整備予定地」につきましては、図のとおり、先日寄贈いただいた土地を含めて、町有地面積 5,522 m<sup>2</sup>となっています。建物の延べ床面積が現時点で約 1,500 m<sup>2</sup>を想定しています。

資料1につきましては以上です。

(町長)

現場を見ていただいた後、一括して協議を行いたいと思いますので、移りたいと思います。

(敷地外構、蝦夷文化考古館視察)

(町長)

会議を再開します。実際にご覧になって、疑問が出てきたかと思います。質疑応答をお受けしたいと思います。

(小尾委員)

幕別は幕別なりの独自の視点の施設を目指すということでしたが、植物など、昔からあるこの周辺の風景の名残を残し、また、地域の施設に対する思いを汲んだ上で、全国に発信できる記憶に残る施設を、災害対策を進めながら行っていただきたい。

(町長)

基本設計の中に盛り込まれている。今後、アドバイザー会議で協議や、事務局から設計事業者へ地域にあった施設にするよう逐一注文をつけるなどの対応を取っていきます。

(東委員)

川が近いということで水害が心配されるころではあるが、近年水に浸かったことはあったのでしょうか。

(生涯学習課長)

建物が建ってからはありません。ハザードマップでも0.5～3mといわれているが、堤防を越えて、水が溜まるとなると相当な大雨だと思うが、そこを意識しながら、完全に水に浸からないよう5mも土盛りするという話にはならないので、最終的に大事なものが水に浸からないよう専門の方々の意見を聞きながら、方法を考えて行きたいと考えております。

(町長)

昭和 56 年はかなり大きな水害があって十勝川が氾濫したが、ここが水に浸かったと聞いていない。それ以前はわからないが、現在の治水対策はぜんぜん違う。ただ、最近の降り方が記録的短時間降水量 100mm を超えるなどがあり、どこまでそれに対応するのかということになるかと思います。

(岩谷委員)

生活館と展示館のマッチングをお願いしたい。生活館はアイヌの方たちがなるべく使いやすいよう希望を聞きながら、そしてアイヌの伝承、料理、言葉など、伝統を後世に伝えていただけるよう、ソフト面を充実させていかなければならないと思います。

展示館は、学芸員、設計の方も含め、史料は後世にそのままの姿で残しつつ本物を見られる場所にしていきたい。

(教育部主幹)

ご指摘のとおりで、これまで触らせていた史料があり、だいぶ痛んでいるものもある。十勝アイヌの中では大変重要な史料と聞いている。新たにアイヌの方に複製を作ってもらい、大事なものは収蔵庫で保管する対応をとっていきます。

(國安委員)

ウポポイに行った時に、幕別の展示物は本当に素晴らしいという話を聞き、びっくりしました。一番知っておくべき町民が何も知らないというのは残念なので、町民の方に広めていきたい。

(生涯学習課長)

情報の発信がとても大事であり、施設ができるのを機に知っていただくよう工夫をしたい。展示の史料を集めるときに、吉田菊太郎さんが後世に残すために、地域のアイヌの方々に「家にある一番大切なものを持ってきてほしい」と呼びかけて集めたものがあり、家から大事なものを提供したということで、地域の人たちから、全て飾ってほしいという希望もあったようです。展示の仕方も工夫が必要だと考えています。

(町長)

史料を残すということはもちろん必要です。この施設を核施設として文化を残していくということが大切なことであって、むしろソフト事業をしっかりやっていかなければならないと思っています。

(町長)

それでは、2 番目の議題に移ります。「(2) 幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫

教育の進め方について」を事務局から説明をお願いします。

(学校教育課長)

2 ページをお開きください。

「1 はじめに」です。

本町の小中学校の施設は、昭和 50 年代から帯広市のベッドタウンとして市街地の拡大により人口が増加したことに伴い、昭和 50 年代に多くが建築されましたが、それらの施設に老朽化の波が押し寄せており一斉に更新時期を迎えつつあります。

本町においては、平成 29 年 3 月に「幕別町公共施設等総合管理計画」を策定し、中長期的な視点から計画的に公共施設の総量や配置の適正化を図り、町民に持続可能な行政サービスを提供していくために、公共施設の維持管理等の基本的な指針を示したところ

です。  
それを受けて教育委員会では、令和 2 年 11 月に「幕別町学校施設の長寿命化計画」を策定し、従来の改築中心の維持管理方法から、長寿命化改修工事等による建物の長寿命化方針に切り替え、築約 20 年、または長寿命化改修から約 20 年を迎えた建物について予防保全的な改修工事を行い、築約 40 年で長寿命化改修を行うことで、建物を約 80 年間使用できるように改修を行っていくこととしました。

計画に基づき、令和 4 年度から札内南小学校の校舎及び屋内運動場の長寿命化改修工事に着手していますが、計画的・継続的に学校施設の長寿命化を実施していくため、建築年数や劣化度調査などの結果を踏まえ、次期対象施設として幕別小学校校舎を検討してきたところ

です。  
「幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫教育の進め方について」は、今後も、更に小中一貫教育を進めるに当たり、「まくべつ学園」のあり方と施設整備の方向性を検討する

ものです。  
なお、「まくべつ学園」とは、令和元年度に設置し、幕別本町地区の幕別小学校と幕別中学校で構成する「施設分離型」の「小中一貫型小学校・中学校」をいいます。

続いて、3 ページの「2 幕別小学校及び幕別中学校の歴史及び特色ある教育活動」

です。  
「(1) 幕別小学校」ですが、幕別小学校は、昭和 7 年に現わかば幼稚園敷地に建築した校舎の改築を機に、近隣に所在する新川小学校、大豊小学校、西猿別小学校との統合が計画され、昭和 51 年度、幕別中学校隣接地の現幕別小学校用地の買収を行い、普通教室 18、特別教室 7、特殊学級教室 1 など延べ 4,416 m<sup>2</sup>の鉄筋コンクリート造 2 階建ての校舎を 2 カ年で建設、昭和 53 年 4 月に新設開校し、鉄骨造 981 m<sup>2</sup>の屋内運動場は開校後の昭和 53 年 12 月に完成しました。

また、昭和 62 年 4 月に新和小学校、平成 8 年 4 月に相川小学校が統合し、平成 22 年度には、校舎及び屋内運動場の耐震補強工事を実施し、現在は指定避難所にもなっています。

幕別小学校では、「未来に生きる高い知性と豊かな心情と強い意志をつちかい主体的に行動できる心身ともに健康な子どもを育てる」を教育目標として掲げ、様々な特色ある教育活動を積極的に進めています。

次に、「(2) 幕別中学校」ですが、幕別中学校は、昭和 22 年 5 月 1 日、幕別小学校の一部を借りて開校し、同年 8 月 12 日に、普通教室 8 など 831.6 m<sup>2</sup>の校舎が完成、昭和 24 年に特別教室 4 を含んだ 9 教室を新築し、昭和 26 年には普通教室 1、特別教室 1 を増築しました。

昭和 36 年には、老朽化著しい校舎を 6 カ年計画で新築に着手し、昭和 41 年 12 月に現幕別中学校用地に 3,084.64 m<sup>2</sup>の校舎が完成、昭和 57 年から 2 カ年で大規模な改修工事を実施したほか、昭和 63 年には鉄筋コンクリート造 1,243 m<sup>2</sup>の屋内運動場の全面的改築を行い同年 12 月に完成しました。

平成 4 年には屋内運動場を除いて建替えを行い、鉄筋コンクリート造 2 階建、4,508 m<sup>2</sup>の新校舎は普通教室 12、特別教室 11 を南側と北側に配置し、2 階部分は廊下で結び、平成 5 年 3 月 10 日にプレハブの仮設校舎から現幕別中学校校舎に引っ越しが行われ、現在は指定避難所にもなっています。

幕別中学校では、「美しく たくましく」を校訓として掲げ、様々な組織的な取組を行っています。

続いて、「3 小中一貫教育の取組」です。

「(1) 本町の小中一貫教育」ですが、小中一貫教育については、平成 27 年 6 月の通常国会で、9 年間の義務教育を一貫して行う新たな学校の種類である「義務教育学校」の設置を可能とする改正学校教育法が成立し、関係政省令、告示と合わせて平成 28 年 4 月 1 日に施行されました。

本町では、平成 29 年度に「幕別町小中一貫教育基本構想」を策定し、義務教育 9 年間を見通した児童生徒の育成をめざし、「小中一貫教育」を積極的に推進することとしました。

具体的には、小中一貫した学力体力向上、学習指導、学習常規、生活規範、特別支援教育等に関する確かな接続をはじめ、乗入授業や交流学習、合同研修会などの児童生徒、教師が触れ合える機会を設定するなどを進め、令和元年度からは町内各中学校を核とする 5 学園で「施設分離型」の小中一貫教育を推進しています。

ここで、6 ページをお開きください。

「表-1 令和 4 年 4 月現在の北海道内の小中一貫教育の設置・導入状況」をご覧ください。

まず、「義務教育学校」ですが、9 管内、18 市町村で 19 学園、うち、十勝管内では、帯広市と新得町の 2 学園であります。

また、「小中一貫型小・中学校」では、11 管内、24 市町村で 41 学園、うち、十勝管内では、幕別町と陸別町の 6 学園であります。



以上のとおり、本町においては先進的に「小中一貫教育」を取り入れ、進めてきていることがわかりいただけだと思います。

4 ページにお戻りください。

「(2)「まくべつ学園」の小中一貫教育」です。

「まくべつ学園」は、平成 30 年度の「幕別町小中一貫教育モデルエリア指定（隣接型一貫校）」を経て、令和元年度に本格的にスタートしましたが、「未来を力強く生きる 自立した子どもの育成」を一貫教育の目標として掲げ、9 年間の一貫した系統的な教育課程の編成を実施しています。

その他、中学校教員の小学校への乗入授業、小学生の中学校登校のほか、小学校と中学校が連携した児童生徒会活動を通じて、地域のお年寄りへの暑中しがきや年賀状を送る活動や清掃など地域ボランティア活動、毎朝のあいさつ運動、いじめ撲滅運動など、小中一貫教育に積極的に取り組んでいるところであります。

次に、「(3)「まくべつ学園」での取組の成果」です。

「まくべつ学園」の小学校から中学校までの全国学力・学習状況調査結果の正答率の経年分析により、学力の上昇が確認されるなど、小中一貫を踏まえた指導による学力向上の成果が見られたほか、小学校と中学校の英検受検者が増加し、3 級以上、さらには準 2 級以上を取得する児童生徒も増加するなど、乗入授業による効果が現れています。

次に、「(4)「まくべつ学園」の昨年度の乗入授業アンケート結果」ですが、小学校の教員では、「専門的な知識を持った教員が授業に参加してくれるので心強い」、「中学校教員は教科経営での良き相談相手となっている」、中学校の教員では、「子どもの個性や特性が入学前にわかるので、入学後の生徒指導がスムーズにできる」、「教科の系統性や小中の指導のつながりがわかり、互いの指導に生かすことができる」などの感想がありました。

また、児童においても「毎回、中学校の先生が来てくれるので、親しく話せるようになった」、「中学校に行くのが楽しみになった」など、前向きな感想が多く聞かれ、児童・生徒と教員双方にメリットが出ていることから、一貫した指導の効果が現れているとともに、中 1 ギャップの緩和にもつながっていると考えられます。

6 ページをお開きください。

続いて、「4 児童生徒数の推移及び将来の見通し」です。

「幕別町人口ビジョン」における将来の人口の推計結果では、2045（令和 27）年には、総人口が 2 割減少し、2060（令和 42）年には 20,000 人を下回る見込みであり、幕別本町地区においても、出生数の減少及び少子高齢化などにより、地区全体では将来的に児童生徒数が減少する見通しとなっています。

ここからは、幕別小学校、幕別中学校それぞれを、表や図を見ていただきながら説明いたします。

まず、8 ページをお開きください。

「図-1 幕別小学校の児童数・学級数の推移と将来の見通し」をご覧ください。

こちらの図は、令和4年度以前は実績数で、令和7年度以降は「第2期幕別町子ども・子育て支援事業計画」の「人口推計」と「幕別町人口ビジョン」から5年ごとの幕別市街地人口の各年齢の人口を算出しています。

また、「特別支援学級数」の令和5年度の第1学年以降の対象者は近年の状況から推計しています。

幕別小学校では、昭和53年度の新設開校以降、昭和56年度に児童数794人、学級数は22学級でピークを迎え、令和4年5月1日現在の児童数は159人、通常学級6学級、特別支援学級7学級となっています。

なお、7ページの「表-2 令和4年5月1日現在の児童生徒数及び学級数」が、本年度の児童数・学級数の内訳となっています。

再度、8ページの「図-1」をご覧ください。

今後についてであります、令和27年度までに児童数は緩やかな減少傾向にあり、学級数は通常学級の6学級は変わらず、特別支援学級も現在と変わらず7～6学級で推移することが予想されます。

次に、「図-2 幕別中学校の生徒数・学級数の推移と将来の見通し」をご覧ください。

幕別中学校では、昭和38年度に生徒数778人、学級数は18学級でピークを迎え、令和4年5月1日現在の生徒数は78人、通常学級3学級、特別支援学級2学級となっています。

なお、7ページの「表-2 令和4年5月1日現在の児童生徒数及び学級数」が、本年度の児童数・学級数の内訳となっています。

再度、8ページの「図-2」をご覧ください。

今後についてであります、令和27年度までに生徒数は緩やかな減少傾向にあり、学級数は通常学級の3学級は変わらず、特別支援学級は令和7年度に6学級に増加し、その後は5～4学級で推移することが予想されます。

なお、以上のとおり、幕別小学校、幕別中学校ともに、児童生徒数は減少していくものの、各学年「ひとクラス」は変わらず推移すると考えています。

9ページをお開きください。

次に、「(3) 通学区域の状況」ですが、通学区域は、幕別町立小、中学校通学区域規則において定められ、幕別小学校と幕別中学校の通学区域は、本町1から新和までの記載の行政区になりますが、全て一致しており、「表-3 幕別小学校、幕別中学校スクールバス路線」のとおり、スクールバスを5路線、6台で運行しています。

次に、「(4) 学校施設の状況」ですが、こちらも、幕別小学校、幕別中学校それぞれを、表を見ていただきながら説明いたします。

10ページをお開きください。

「表-4 幕別町長寿命化計画における学校施設劣化度評価結果」をご覧ください。

こちらは、「幕別町学校施設の長寿命化計画」の抜粋になります。

まず、幕別小学校校舎の劣化状況評価の健全度は、札内南小学校及び札内北小学校校舎とともに37点で最も低い結果となっています。

次の「表-5 幕別町長寿命化計画における長寿命化の実施計画」をご覧ください。

幕別小学校校舎は、第1期に長寿命化工事を実施する計画となっており、建築年数や劣化度調査などの結果を踏まえ、令和4年度から2カ年で実施する札内南小学校の長寿命化改修工事の次期対象施設と検討してきたところであります。

また、屋内運動場は、「表-4」になりますが、健全度が45点で他の学校施設と比較しても低い点数となっており、「表-5」のとおり、第1期で長寿命化工事を実施する計画になっています。

次に、幕別中学校ですが、幕別中学校校舎は、「表-4」のとおり、健全度は59点、「表-5」のとおり、第1期に予防保全的な改修工事を実施し、第3期に長寿命化工事を実施する計画となっております。

また、屋内運動場は、「表-4」のとおり、健全度が65点、「表-5」のとおり、第3期に長寿命化工事を実施する計画となっています。

11ページをご覧ください。

続いて、「5 施設整備の方向性」です。

令和元年度から幕別小学校と幕別中学校は、小中一貫教育が推進され、義務教育9年間を見通した計画的・系統的な学習指導や生徒指導による学力向上や、いわゆる中1ギャップの緩和が図られてきています。

今後もさらに、小中一貫教育を進めるに当たり、次の3通りの施設整備の方向性が考えられます。

一つ目が、(1) 「施設分離型」の「小中一貫型小学校・中学校」です。

こちらは、幕別小学校と幕別中学校のそれぞれを使用するもので、これまでの方式になります。

二つ目が、(2) 「施設一体型」の「小中一貫型小学校・中学校」です。

こちらは、幕別小学校あるいは幕別中学校のどちらかを活用するというものです。

三つ目、(3) 「義務教育学校」です。

こちらは、「施設一体型」と同様に、幕別小学校あるいは幕別中学校を活用するものです。

なお、下段の「表-6 義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校の違い」を参考で添付していますが、義務教育学校になった場合の、大きな違いとして、修業年限が9年間になること、組織・運営として、「1人の校長、1つの教職員組織」になること、教員免許については、原則、小学校と中学校の両免許状を併有することなどです。

12ページをお開きください。

こちらからは、参考資料になります。

12ページが、「幕別小学校の配置図」、13ページが「幕別中学校配置図」になります。

14 ページが、「幕別小学校の平面図 1 階」です。

15 ページが「幕別小学校平面図 2 階」になります。

16 ページが、「幕別中学校の平面図 1 階」です。

17 ページが「幕別中学校平面図 2 階」になります。

ご覧のとおり、それぞれの平面図の左側、方角で北側になりますが、渡り廊下から北側は「特別教室」が配置されています。

また、それぞれの平面図の右側、方角で南側になりますが、渡り廊下から南側は「普通教室」が配置されており、現在は、2 階で全ての通常学級を配置している状況であります。

以上で説明を終わります。

(町長)

今の小中一貫教育の取組における効果、そして今後の施設改修を踏まえ、どのような小中一貫教育を進めるのがいいのか、結論としては、資料 11 ページ表-6 にありますように (1) 施設分離型の一貫教育、(2) 施設一体型の一貫教育、(3) 義務教育学校の 3 択になろうかと思えます。時期は、10 ページにありますように幕別小学校の校舎の健全度が 37 と非常に低いことから、例としては、今、行っている札内南小の改修の後あたりで着手していくこととなりますので、それを踏まえて、いずれにしても保護者や子どもたちがどう思うかというのが一番大事なので、聴き取り調査や意見集約などをしながら、最終的な方向性を見出していくことになろうかと思えますが、ご意見をいたければと思っています。

(小尾委員)

幕別町で小中一貫教育を進めて平成 29 年から今年で 6 年目、一貫教育に期待をしているところであります。先ほど、町長も言われたように、保護者、児童生徒が「まくべつ学園」をどのように捉えているかということでもありますけれども、先日、息子を含めて 4 家族が家に集まりました。そのうちの一家族が夫婦ともに白糠町の庶路の出身で、庶路学園の件で、保護者、地域の人にしても児童生徒にしても、そこの中で過ごす環境というのが、本当にお勧めですよというくらい聞かされた。私は新和小中学校で一つの校舎の中での 9 年間、小学生と小学校教員、中学生と中学校教員と一緒にわけですから、中一ギャップなんていうのは影も形もなかった。本当に和やかな中で、安心して過ごせたという学校生活を覚えています。そこでお聞きしたいのが、小学校と中学校がどのような扱いといたしますか、義務教育学校となった場合に小学校課程 6 年間、中学校課程 3 年間はどのような扱いになるとお考えでしょうか。

(学校教育課長)

先ほど 9 年間というお話をさせていただきましたが、公立の中でも小学校 6 年間に関

する部分が前期課程になって中学校の部分が後期課程となる、卒業式はあくまで9年生の1回、卒業式に併せて、前期課程の終了証書の授与といったやり方をやっている学校もある。そのような形が望ましいのかと思いますが、いろいろなケースを見ながら進めて行きたいと考えています。

それで、扱いですが幕別小学校と幕別中学校は一度、閉校という形になります。校旗、校章は、展示スペースなどを設け、児童生徒、地域が歴史を深め、継承していかなければならないと考えています。

(町長)

今は、修了証書は1学年ごとでしたか。

(岩谷委員)

1学年ごとに通知箋の裏に書かれて出ています。

(町長)

それに加えて、前期課程の修了証が出ていることが多いということですね。

(教育長)

卒業ではないのですけれども。

(東委員)

小中一貫教育の形が3パターンの中からということらしいですけれども、今現在、保護者などには話はされているのでしょうか。

(学校教育課長)

今現在、直接的には保護者の方にお話を伺っている状況にはないのですが、過去にまくべつ学園学校運営協議会において、幕別校区内に学校が1校しかない、学校地域が一致しているといった地域特性や、一貫教育を推進する上では、施設一体型が望ましいというような意見をいただいています。保護者の方からのそういった意見については、これからさらに皆さんからいただいた意見などを踏まえながら、本年度中に各学校PTA役員会やまくべつ学園学校運営協議会や地域の有児家庭を対象にした説明会等を開催していきながら、丁寧に保護者、地域に対して説明をした上でご理解をいただきながら施設整備の方向を見出して行きたいと考えています。

(東委員)

何らかの説明会を設けてくださるということですが、3パターンそれぞれの特徴があ

と思います。それぞれのメリット、そしてデメリットも必ずあると思いますので、きちんと丁寧に調べた上で、保護者への説明であってほしいと思います。

(町長)

どういふ進め方で開催していくのかは、教育委員会会議の中で、十分、議論いただいて進めていくことがよろしいかと思ひます。

他にありますか。

(岩谷委員)

まず、私は義務教育学校を賛成します。それが、これから先の教育としては一番いいだろうと思ひます。東委員からありましたけれども、保護者への丁寧な説明については、今いる児童生徒の保護者への説明だけではなくて、幼稚園、保育所、さらにその下の子たちが上がってくる頃のお話ですので、子どもがいる家庭には必ず説明会の機会を与えていただくことを考えてください。

それともう一つが、小中一貫教育というものの考え方自体が、これからの幕別町をどうして行くんだ、幕別町の未来をこの子どもたちにどう託していくんだということが含まれてくるのだと思ひます。中教審の部会での小中一貫教育の話の中でも、地方活性のための教育方針という言葉も出てくるのでそれがあっても良いと思ひ、そういうことだろうと思ひます。

そのために、前の会議の時にもそうなのだけれども、そもそも6・3制がなぜなのかということをもまず調べて、今こういう課題が出ています、それを小中一貫の教育9年間でこういう風に変えていきます、その場合、こういったデメリットもありますという説明の仕方をしてくださいとお願いした時に、自分も調べなければいけないと思ひて調べてみたら、根拠がないのです。戦後、進駐軍がいるときに教育改革をした時に欧米にならって(高校を含む)6・3・3制をいれてくるのだけれども、もともとのアメリカはK-12という長いスパンでの一貫教育概念があつて、12というのが1ダース、その半分が6年で、初等教育、もう残りの半分が中等教育、それを半分にした3年が前期中等教育で中学校、残りの3年が後期中等教育で高校という分け方しかしてこなかった。なので、6・3制にこだわる必要がないだろうと思ひます。

ある先生に聞くと、今は4・3・2年制がいいと。それは、小学校5年生くらいで、心身の成長の個人間の開きが大きくなるので、5年生以降は教科担任制にして個別最適化に向けた指導をしてあげるほうが、より伸び率があるということで、義務教育学校という9年間で、6・3にこだわらないフレキシブルな形で4・3・2でもいいし、5・4でもいいし、そういうことも含めた、先生方の教育論というか、どういふ形がいいのかという、そつちの整合性のほうの説明というか、検討会というのがあつて、初めてそれを併せた形で、義務教育学校にするのか、小中一貫教育の分離型にするのか、併設型にするのかとい

うところに教育の姿を描いていくのがいいのではないかというふうに思っています。

(町長)

やはり子どもの発達というのは時代と共に変わってきているので、いつまでも同じ6・3制でやるのではなく、今の話のように4年から5年が大きな節目になるのであれば、そういう考えも出てきて当然だし、ただ、そうなった時に、教科をどうするのか、教科担任にするのか、学級担任にするのか、教員にも大きく関わってくるのでかなり難しいですね。ここは、全国的にそうしていくとしないと、なかなか、幕別だけというのは難しいのかなと思います。

(岩谷委員)

ただ、調べた中では、4・3・2年制にして5年生から教科担任制にするってところが義務教育学校の中では約6割あるそうです。6・3制のまま残っているのは20%を切っているらしいです。5年生くらいから教科担任制に変わってくるところが圧倒的に増えているそうです。

(町長)

そうなってくると教員配置が変わってくるので、そこは、道教委の対応が必要ですね。

(教育長)

帯広市の大空あたりも何年後かに教科担任制を進める話を聞いています。5年生で。一番効果的なのが5年生で導入して、4・3・2年制。真ん中の3の部分、先生を確保できるかどうか、そうなると、先生の配置が、小学校・中学校の両方の免許を持っている先生を配置しなければならない、道教委もそこは頭が痛いところだと思うのですが。時代の流れですから、札幌や旭川も、ゆくゆくはそういう話も出てくるのではないかと思います。

(岩谷委員)

都市部で問題になるのは、複数の小学校と一つの中学校というパターンが多いので、意外と義務教育学校に移行しづらいという。その点、幕別中学校と忠類中学校だけは、義務教育学校に移行しやすいですね。

(町長)

札内も、小学校3校ありますけれども、北小についても白人小についても、いずれそれほど遠くないうちに、1学級しかなくなるでしょう。

他にありませんか。

(東委員)

小学校と中学校を一緒にするのでしたら、体育の時のグラウンドなど困るのでは。小学校のグラウンドを使うなどの案はあるのでしょうか。

(学校教育課長)

義務教育学校となった場合は、施設一体型となるので、どちらかの学校ということになるのですが、体育の授業ですとか、音楽、理科なども当然、9学年になれば、それぞれ1クラスずつですが、カリキュラムの部分も、きちんと見据えた中で整備していかなければならないと思います。当然、大規模な学校でも特別教室や体育館は一つしかないので、十分対応できるだろうという予想はできているのですが、小学校のグラウンドの部分も合わせるとかなりの面積になるというので、おそらく、上手に使っていけるかと考えています。十分検討しながら、当然必要な部分は残す、活用することを検討させていただきたいと思います。

(町長)

今の施設利用の点について何かございませんか。

(岩谷委員)

もし、施設一体型、または義務教育学校になった場合、幕別小学校、幕別中学校のどちらの校舎を使うのでしょうか。施設の使い方についてもうちよっと具体的に聞かせていただけますか。

(学校教育課長)

施設一体型、義務教育学校、どちらを目指すにしても、築40年以上経過して、さらに健全度が低い幕別小学校の校舎を使うという形ではなく、築後28年と比較的年数が少なく、ある程度健全度を有している幕別中学校校舎を活用するということが考えられると思います。その場合には、幕別中学校校舎の予防保全的な改修工事と必要最低限の増築工事が考えられます。

(小尾委員)

前向きにというか、児童生徒、保護者が理解を示してくれて進めていった場合に、目標年度はあるのでしょうか。

(学校教育課長)

長寿命化計画に基づいて、順番に整理していかなければならないということで、札内南小学校が令和4年、5年で改修ですので、次期ということになれば、例えばですけれども、5年度で南小の改修が終わる、6年度で実施設計を行う、7年度で改修を行う、8年度か



らというのが、タイムスケジュールになるかと思います。

(町長)

(「まくべつ学園」の小中一貫教育の取組について) 資料に、児童側から見た感想はあるのですが、実際に進学して中学生になった子どもたちがどうだったかというアンケートは。上がってみてどうだったかということの検証が必要だと思うのだけれども。

(学校教育課長)

中学校に確認して、あれば、ご紹介させていただく、なければ、そういった声も聞いていただけるように中学校のほうにお話したいと思います。

(町長)

幕別の例だけではなく、小中一貫教育がどうだったのか、そこは広く、(中学校に) 進学して良かったとなるのが一番好ましいわけで、そこはしっかり検証してもらおうよう、よろしくをお願いします。

(教育長)

忠類中学校で中学1年生を対象にアンケートを行ったと思います。その結果では、やっぱり事前に小学校の時に中学校登校や乗入授業をやったことが、結果的に良かったという感想があったと記憶しています。

(町長)

義務教育学校がいいだろうと皆さん思っていると思うが、では、実際どうだったというのが大事なので。

(國安委員)

私は、小学校の時に前に出られなかった、それが中学校に進学し、環境が変わったことがきっかけで積極性が出たということがありました。ジャンプするタイミングになることもあるので、指導する先生がそういう芽をつぶさないという意識を持つことが大切だと思います。とにかく中1ギャップさえなければいいというのではなく、小学校の時に貼られたレッテルがずっと続かないように、いろいろな目で、しっかりわかった上で進めてほしいです。

(町長)

そういう意見があったということ、校長、教頭会議で紹介していただければと思います。

(教育長)

当初、小中一貫教育を導入した時には、中一ギャップの“解消”という言い方をしていたのですが、今、言われたように、ギャップがあって、それを乗り越えることによって伸びるというのもあるので、中一ギャップの“緩和”という言い方をなるべく今はしていません。

(東委員)

今の小学生の高学年という位置づけも、児童が小学校という場所での一番上の学年ということで、学校でリーダーシップをとったり、行事を運営したりという様子も見られますので、もし、義務教育学校となった場合は、11歳12歳が上の学年ではなくなりますけれども、リーダーシップを出せる機会があればいいと思います。

(岩谷委員)

今の東委員の話が、最もデメリットとしてあげられるらしいです。

(教育長)

そこはやっぱり4・3・2年制になった場合でも、リーダーシップを発揮できるような取組になるよう、やっていかないと。

(小尾委員)

よくほかのところで、児童生徒会とかを一緒にやっている、先輩だけに任せているってということではなく、一緒にやっているというのが見受けられます。

(町長)

運営上、いろいろと工夫が必要なのかなと思います。

それでは今日予定していました協議事項につきましては以上とさせていただきます。

この際ですから、この2題以外で、お話、話題提供等がございましたらお願いいたします。

事務局からはありますか。

(政策推進課長)

次回の会議につきまして、日程及び協議事項等の内容は未定ですが、決まり次第、ご案内させていただきますので、ご出席をよろしくお願いいたします。

(町長)

以上を持ちまして令和4年度第1回総合教育会議を終了いたします。  
ありがとうございました。